



編集：筑波大学野外運動研究室広報係
発行：筑波大学体育科学系野外運動研究室
〒305-8574 つくば市天王台1-1-1
TEL/FAX 029-853-2729

野外運動研究室ニュースレター

【巻頭言】

向後 佑香（体育系特任助教）

長いようで短い夏休みが終わりました。終わったというよりも駆け抜けたという方がしっくりくるかもしれません。私にとって今年の夏休みは、つくばに来てから10回目の夏休みだという事にこの巻頭言を書いていて気が付きました。部活に明け暮れていた夏、初めて登山に行ってもう二度と登山に来るものかと半泣きだった夏、そしてどっぷりキャンプ漬けだった夏、巻結びで怒られた夏、ひと夏の淡い出会いがあった夏（ウソ）、色んな夏休みがあった事を思い出しました。研究室のみなさんはどんな夏休みを過ごしましたか。

MC1の時の日記にこんなことが書いてありました。

2ヶ月間の夏休みが終わった！
そのほとんどをキャンプに費やした。
今日の研究室の室会で井村先生がこんなことを言っていた。
「この夏、いろんな経験をつんで積んで、いろんな知識を得たと思う。でもそれをそのままにするんじゃなくて、ノートに書いたりして記憶をしっかりと整理することが大切。」と。

たしかに。
そう思って振り返ってみると

7月のはじめのキャンプ。
高校の先生がめちゃくちゃ生徒の事わかっていて
すごく生徒と近い距離で接していて
めちゃくちゃかっこよかった。

サッカースクールのキャンプは熱いコーチたちに出会った。
いつまでも子供らしさを忘れずに
熱くありたいと思わせてくれた。

花山ではほんとにたくさんのことを体験し学んだ。
一番感じることは
いくら机の上で考えても、実体験しないとわからないって事。

そのときを思い出してみると
「これは大事だ。絶対忘れないでおこう。」
って思っていたことなのに、2ヶ月もするとあっさり忘れていたこともある。
すごく大事なことを学んでいるのに、その一瞬で終わってしまうことはもったいない。

井村先生に言われなかったら
このまま2学期の忙しさの中にアワワワワーってなっていた気がする。

だから、一度しっかりと経験や知識の整理をして
それからアワワワワーってなろうと思う。

2学期も忙しいけどやるしかないかー！！

稚拙な文章で申し訳ないのですが、何が言いたいかという、是非この夏得たものを整理して、次の知識や体験を吸収する準備をしておいてほしいということです。今の自分は何ができて何が足りないのか。何を学びたいのか。しっかりと整理し、是非深みのある2学期を過ごしてほしいと思います。同級生、そして室員同士お互い切磋琢磨していきましょう。

【授業関連報告】

○野外運動方法論演習Ⅰ（キャンプ）

安 柄泰（UG3）

7/19～7/25の7日間にわたり南会津でキャンプ実習をしてきました。自分が今まで体験してきたキャンプは大体の環境が整っていた中で行われていたのですが、今回の実習は全てを自分達で作り上げていくもので、まったく新しい体験でした。一番衝撃的だったのは実習場所で、沼の横の林に車が止まり、ここが実習場所だとわかった時は正直帰りたと思いました。ただ実習を通して肉体的にも精神的にも成長でき、過酷な状況だったからこそ絆も深まったと思います。今すぐにでも鳴沼に戻りたい気持ちです。本当に一生忘れられない実習になりました。

○野外教育・スポーツ実習 I (キャンプ)

佐藤 冬果 (MC1)

7月19日～25日、福島県南会津郡にて野外教育・スポーツ実習 I (キャンプ) が行われ、野外運動研究室から3名、他研究室から2名の計5名が、自主企画のツリーハウス作りや、マウンテンバイクでの峠越え、尾瀬登山などのプログラムを行った。メインプログラムの尾瀬登山では、1日目に会津駒ヶ岳、2日目に燧ヶ岳と至仏山を踏破し、3日間で57kmもの距離を歩くハードなコースとなったが、尾瀬の自然の美しさと、登山の厳しさが5人の仲を深めてくれ、有意義な実習となった。



至仏山山頂にて

○体育センターキャンプ

北川 武 (UG3)

7/10～7/13に行われた一般体育のキャンプ授業に3日目と4日目の補助員として一緒に参加させてもらった。初めての補助員という立場に不安を隠し切ることができない。そんな私に初めてのキャンプネームが付けられる。その名は“ダルシム”。気に入った。

3日目の活動は班別活動でジャム作りやパン作り、染め物、釣りなど各々のやりたい活動をあらかじめ立てた計画に沿って行う。どの班も滞りなく進み、素晴らしい成果、釣果をあげることができた。初めての補助員という立場だったが、知識が不十分であまり役に立つことができなかった。今後キャンプに関する技術、知識を身につけ、人に指導できるようにしていきたいと今回の体験で思った。

【課外活動関連報告】

○南会津アドベンチャーキャンプ

清水 啓一 (MC2)

7月30日(月)～8月3日(金)に福島県南会津郡針生 緑の広場において、南会津アドベンチャー

キャンプが行われた。本事業は子どもゆめ基金の助成を受け、リフレッシュキャンプの名目で被災地の子どもたちを対象に自然体験を提供することを目的に企画された。私はPDとしてこのキャンプの運営に携わり、参加者の募集、プログラムの作成、当日の全体指揮などが主な作業であった。PDとして慣れない部分で、キャンプ長の渡邊先生や、特にMDのニモさんと現地で動いてくれた松澤瞬さんには多大な迷惑をかけることになったが、一つ一つが今後の自分に生きる貴重な経験になった。また終わってみて、まだまだたくさんの可能性を秘めたこのキャンプが、今後どのように発展していくのか楽しみである。

○藤村女子高校キャンプ実習

梶田 歩 (MC1)

7月10日(火)～14日(土)、藤村女子高校のキャンプ実習が行われた。キャンプ長の渡邊先生のもと、院生5名、学群生2名の7名が指導に当たった。スタッフ人数が少なくカウンセラーによっては1人で3班を担当する人もいたが、それぞれが持ち味を発揮してキャンパーと一緒に楽しみながら活動を行っていた。一方、藤村女子の先生方からは「もっと厳しく指導できるようになるといいのでは」というお言葉を頂いた。そういったスタンスも含め、キャンパーに対する様々な接し方を身につけて行けたらいいなと思った。

○JFA S級指導者養成講習会野外研修

日比野 功宜 (MC2)

8月26日に静岡市清水区日本平でJFAのS級コーチ養成講習会野外研修が行われた。我が研究室からは総括として渡邊先生、院生からは久米、清水、日比野の計4名が参加をした。日本のサッカーの将来を担うであろう指導者の方々の野外研修ということで、私たちが前日入りをしてしっかりと準備をした中で本番を迎えた。今回は静岡に赴いての研修ということで、筑波大学の野性の森での常設されたエレメントを使用するのではなく、その場にあるものを活用しての研修であったので、いつもとは違った感覚で講習会が行われた。本番も特に問題も起こることなく、いい雰囲気の中、研修会を終えることが出来たと思う。

○日本野外教育学会大会

久米 あゆみ (MC2)

7月7日(土)、8日(日)にかけて、日本野外教育学会第15回大会が沖縄キリスト教短期大学で行われた。また7月6日(金)から大会中にかけて沖縄の豊

かな自然に触れられるエクスカージョンも実施され、研究発表だけでなく野外教育という分野を様々な角度から見つめ直すことのできる大会内容であった。

今回は本研究室のOBOGである大会実行委員の張本先生と奥様が、普段運営されているコミュニティスペース「ていだの家」を学生のために無料宿として開放して下さった。日中は学会で研究発表

から学び、夜は宿で北海道教育大学や信州大学などの学生たちと交流する時間を持てたことで、これからの野外教育の在り方について考えを深める貴重な時間になった。来年度の学会大会は京都で行われる。ぜひ時間をつくって、室員の皆さんも参加して世界を広げてほしい。

リレーコラム～OB・OGからのメッセージ～



93UG 卒業 96MC 修了
張本 文昭さん

後輩の皆さんには、脱「体育会系オンリーな野外」を期待します

ナミノコガイという貝がいます。砂浜のちょうど波打ち際の中の砂に潜っていて、潮が満ちてくるとジャンプして波に乗り、変化する潮位にあわせて少しずつ波打ち際を移動します。ジャンプする様子が波の子のように見えるからか、漢字では波の子貝と書きます。この貝は、沖縄県版レッドデータブックでは絶滅危惧 1B 類に分類され、今では沖縄本島北部の幅 100m 位の小さな小さな浜にしか棲息していません。2 億年かけて進化した貝類はそれぞれの棲息環境に合わせた進化をしているため、何処にでも居るというわけではなく、適した環境も非常に限られているのです。

かつて沖縄県内でこの貝が最も多くみられた沖縄本島南部の浜と貝たちは埋立により消滅しました。八重山諸島で唯一、西表島のある浜にナミノコガイが居たのですが、リゾート開発が進み、ここからも消えました。沖縄県内の何カ所かの浜で生きていたナミノコガイは、先に述べた幅 100m の浜以外、埋立や開発によって、すべて消えました。似たような境遇、つまり絶滅が危惧される貝たちがほかにも何種類か居ます。

みなさんはあまりイメージできないと思いますが、沖縄の自然は今、大規模な開発工事や市民の暮らし、そして米軍の訓練などによって、かなりダメージを受けています。僕は沖縄に住んで 16 年ほどになります。16 年前からそのようなことは進行していたはずですが、意識したのは最近です。野外を専門にしていると言いながら自然のいいところだけを摘み食いしていたこと、そして学生時代に体育会系のキャリアしか積まなかったことが原因だと思い、反省しています。

僕も学生の頃は関心もなかったし、その一方で大自然を求め、ダイナミックな活動を好んでいました。でもそんなことが可能な時代はいつまでも続かないと感じています。自然が失われていくのは沖縄だけの話でなく、茨城や本土各地でも起こっているはずです。僕らの後の後の世代にまで、今ある自然や、自然と暮らす文化を継承するために、どうか皆さん、静かなる自然にもっと目を向け耳を澄まし、体育会系的手段を駆使しながらも、人文・社会・自然科学的なアプローチとネットワークで自然や未来を考えてください。

【編集後記】

厳しい夏が終わり、肉体的にも精神的にも一回り成長したという方も多いのではないのでしょうか。その力を発揮する機会はまだたくさんあると思いますので、意欲的に自分のやりたいことに取り組んでいきましょう！
(広報担当：山川)